

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

65



2年後の2025年に団塊の世代が75歳以上になり、日本がさらなる「超高齢社会」に突入します。認知症を含め重度な要介護状態となっても住み慣れた諏訪の地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。その推進のために「諏訪市地域医療・介護連携推進センターライフドアすわ」を中心として薬剤師も医師、歯科医師、看護師、ケアマネジャー、介護士、栄養士、行政など多くの職種の方と連携を図っています。

在宅訪問を受けていらっしゃる方も年々増えています。多くの職種の方がご自宅を訪問して

薬剤師「も」

訪問いたします

クオール大手薬局 管理薬剤師

ふく だ かず ひろ
福田 和博



精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築（イメージ）

可能となります。そしてご家族の負担も減ります。

薬剤師は「薬の専門家」です。ご自宅にある一般用医薬品、置き薬、健康食品、食品等との飲み合わせを確認します。正しく服用できない場合はその解決方法を一緒に考えます。うつかり飲み忘れた薬などは、無駄にしないように医師と相談して日数調節も可能です。

お困りごとがあれば遠慮なく薬剤師に相談しましょう。

また「地域包括ケアシステム」はご高齢の方に限った話ではありません。平成29年には厚労省から「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（通称…にも包括）」の構築を目指すことを新たな理念として明確化されました。精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労など）、地域の助け合い、普及啓発（教育など）が包括的に確保されたシステムのことです。こちらにも構築を進めています。

諏訪市が掲げる「誰もが元気に安心して暮らせるまちづくり」のために「地域包括ケアシステム」の構築にむけて私たちも研鑽してまいります。

（毎月第2日曜日掲載）